

## 現状と目的

北海道林業統計にも記載されているように北海道人工林の齢級別面積は、民国合わせⅧ齢級以上の人工林面積が72%、Ⅹ齢級以上の人工林面積が44%と高齢級の人工林が多く、当署管内でも同様のことから、今後、主伐再造林の事業量が増えるものと考えられます。

伐採後の再造林を積極的に進めるには、造林作業の省力化・低コスト化など、事業の効率化を必要と考え、コンテナ苗の活用、末木枝条の販売等を含む一貫作業システムの取組を紹介します。

## 取組の内容・成果

## ○一貫作業システムと末木枝条の販売での機械の相互利用

## グラップルの相互利用



木寄せ、積み込み



地拵え



末木枝条積み込み等

## フォワーダの相互利用



集材



苗木運搬

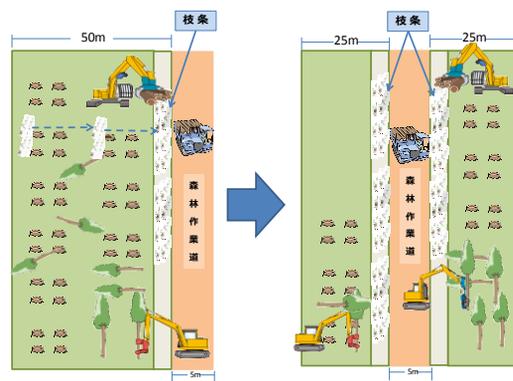


末木枝条運搬

## ○森林作業道作設箇所の改善による作業効率化

グラップルによる末木枝条の移動を2回行う必要があり、末木枝条に土が付く。（改善前）

平成27年度からは、伐採時から伐倒方向を森林作業道側へコントロールすることにより、末木枝条の移動が少なくなり、末木枝条に土が付かず、作業効率UP。



## ○コンテナ苗の活用

夏植栽でも活着率94~100% 》①夏作業の軽労化  
②作業の偏りを防ぐ

地拵え・下刈の省力化 》秋植は風倒・雪害 》植栽時期に注意（クリーンラーチ等の早  
をねらった大苗植栽 》のリスクがある 》期生長が期待できる樹種は大苗の必要なし）

植付の機械化 》①植付の熟練度必要なし ②植付作業の  
（オーガの活用） 》効率化 ③植付作業の軽労化

## ○その他の取組

末木枝条のチップ 》現地発生末木枝条 》下刈の省力化  
によるマルチング 》チップで伐採面積の 》を期待  
約40%をマルチング



末木枝条のチップによるマルチング実施箇所の2年後



コンテナ苗植付用アタッチメントを取付けたオーガ

## 今後の展開

これまでの成果 》①意見交換会、現地検討会の場を活用し情報共有 》  
②調査の継続（データの蓄積）

》 国有林での標準仕様化  
民有林等への普及